山口大学医学部附属病院

病理診断科

【概念・理念】

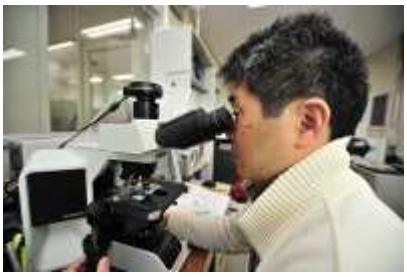
～病理診断科へようこそ～

病理診断科の主な業務である病理診断は、生検などにより直接採取された組織を診断可能な標本にし、光学顕微鏡などを使い良悪性の判定等を行います。その確実性の高さから、病理診断の多くが Final Diagnosis となります。

病理医は、各科にまたがる病変に対しての幅広い知識が求められ、Doctor of doctors と呼ばれています。優秀な学生こそ、病理を希望して欲しいと思います！

1.病理診断

病理組織診断と細胞診断、迅速診断があり、これが病理診断科の主な業務となります。詳細は「病理診断について」を参照下さい。



2.病理解剖

病理解剖（剖検）は、患者の治療や診断が適切だったのかを死後検証するもので、特異な疾患の場合や、先進の治療を行った場合の効果判定等のために行うこともあり、医学の発展に寄与するものです。CPC を行う症例もあります。



（写真は病院 CPC の様子）

【研修目標】

2 年次 3 ヶ月の研修により、臨床医として必要な外科病理学の基本的知識、技術を習得する。また将来病理医を志す者にとっては、研修により病理診断学の基礎を習得するとともに、継続して病理診断科あるいは病理学講座で病理診断学、病理解剖学を学ぶことにより、死体解剖資格を受けることが可能であり、日本病理学会病理専門医および日本臨床細胞学会細胞診指導医の受験資格を得ることができる。

【研修医の 1 週間】

原則として月曜日から金曜日まで、適宜指導医の指導を受けながら、臓器の切り出しおよび組織標本、細胞標本の鏡検を行う。病理解剖があれば、死体解剖資格認定者の監督のもと、その執刀を行うことも可能である。

【当直について】



当直制はとらない。

【病理診断について】

生検や手術などで取られた組織検体や細胞検体を適切に処理し、鏡検可能なスライド標本を作製します。標本作製は検査技師の仕事です。病理医は手術検体や迅速検体の切り出しを行い、出来上がった標本を鏡検し、病理診断書を提出します。病理診断は最終診断となり、そのためその診断には重い責任が伴います。臨床医のように患者と直接接する機会は少ないですが（セカンドオピニオン外来などを行っている大学もあります)、臨床医療をサポートする重要なものの一つが病理診断です。

病理では、全身の様々な疾患について接し、学ぶ機会が得られ、その診断を自らが行うことにより、疾患についての深い理解が得られます。

病理医は求められています

病理医は全国的に不足しており、病理希望者は大変貴重な存在になります。病理専門医を欲している総合病院は多くあります。しかしながら、現状は大半の総合病院に常勤病理医はおらず、居たとしても多くが定員割れしている状態です。このままではいずれ医療全体にも影響が及ぶことが予想され、厚生労働省としても病理医を増やすための施策をいろいろと行っています。風は吹いています。その風に乗って力強く羽ばたく若い種たちが、多く出ることを願っています。まずは病理診断科で研修をしてみませんか？歓迎いたします。

【先輩からのコメント】

病理医は様々な知識や組織をみる眼や感覚を身につける必要があり、一人前になるのは簡単ではありませんが、この病理診断科では先輩たちの指導のもと、みなさんが一人前になるまで確実にサポートしてくれます。大変やりがいのある仕事です。日々多くの病理診断を行いますが、その一つ一つが患者さんにとっては、人生を左右するかも知れない大切な判断となるのです。

病理診断は臨床業務になくてはならないものですが、現在病理医は圧倒的に不足しており、危機的状況です。一緒に山口県の医療を支える人材になりませんか？！病理科を標榜しての開業も可能です。女性も働きやすい職場だと思います。

【お問い合わせ先】

山口大学医学部附属病院　病理診断科
星井　嘉信
TEL：0836-22-2424
E-mail：hoshii@yamaguchi-u.ac.jp
Website：http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~diagpath/